

内灘町公共下水道の応急復旧計画の立案支援について

- 内灘町では、能登半島地震により上下水道施設が被災した。地震後約3ヶ月で全域給水が再開。一方で、大規模な液状化等の発生した県道沿いの排水再開が出来ていなかった。
- 能登上下水道復興支援室は、現地調査に基づき、生活排水の流向変更、仮設管きょ・仮設ポンプの設置による応急復旧計画案を立案し、内灘町に提案。
- 町は応急復旧計画案を参考に工事等に着手し、令和6年8月1日に公共下水道区域全域の応急復旧を完了。

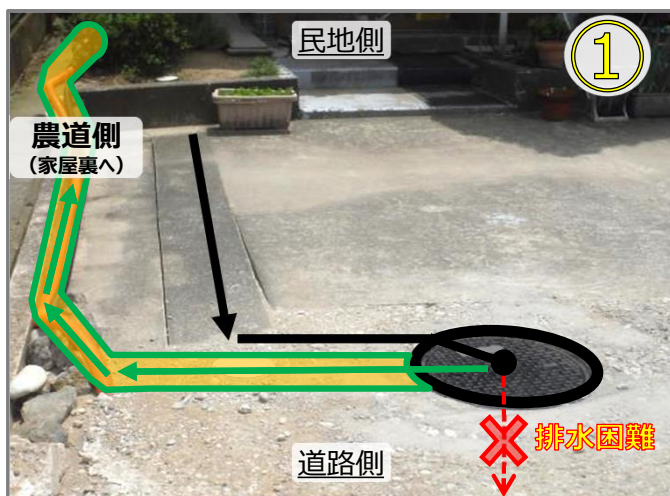
留意事項

- ・ 隆起等により、一部民地と道路の高さ関係が逆転し、排水困難となった。
- ・ 道路において本復旧工事等が予定されていた。
- ・ 地下水位が高く、施工性の観点から仮設管きょを深く設置することが出来なかった。

応急復旧計画の考え方

- ① 生活排水の流向を変更し、家屋背後の農道側に排水。
- ② 家屋背後の農道に、仮設管きょ、仮設ポンプを設置。
- ③ 仮設ポンプの設置位置を調整し、仮設管きょの埋設深を調整(※)。

※最下流ではなく、中腹に仮設ポンプを設置し仮設管きょの埋設深を浅くした。



生活排水の流向変更



仮設管きょの設置



仮設ポンプの設置